エスワティニ王国
（旧国名：スワジランド王国）

【国名】

●２０１８年４月１９日、国名をスワジランド王国からエスワティニ王国に変更。国名はどちらもスワジ民族の土地の意味だが、前者は英国から独立した際の国名。エスワティニのムスワティ３世国王の指示により、独立５０周年を記念して国名が現地語に改めらた。

●スワジ民族は、現在のエスワティニ、南アフリカ・ムプマランガ州及びモザンビークにも居住している。

【国旗】

●１９６８年、英国からの独立時に制定された国旗は、青は深く澄み渡る空と平和、黄は豊富な鉱物資源、赤は自由のための闘争を象徴してい

る。中央はスワジ戦士の盾と槍、青い天人鳥の羽をまとった王の笏（しゃく）、盾の白と黒は牛の皮を表す。

ムババーネ市内

【国土】

●エスワティニは南アフリカとモザンビークに周囲を囲まれた内陸国（南アとの国境線は約４３０km、モザンビークとの国境線は約１０５km）。国土は主に高原と丘陵地帯だが、国の北半分は谷が深く滝や渓流がある。夏は蒸し暑く雨量が多い。

●１０月が最も暑く、雨期は１２月初め頃から４月末まで続く。低地草原では日中４０℃以上になることもあり、干ばつの被害

を受けやすい。５月から８月までが冬で、冬は雨量が少なく温暖だが、高地では涼しく、夜はかなり冷え込む。６、７月には所により霜が降りる。

【人口・民族】

●人口は約１１４．８万人で、スワジ族中心（約９５％を占める）の国家であり、他にズールー族、ツォンガ族、ヨーロッパ系、カラード（ヨーロッパ系白人とアフリカ系黒人あるいはアジア系との混血）などにより構成される。

●社会は家長制で一夫多妻制も認められており、男性の地位が圧倒的に高い。アフリカ最古の王国の一つでもある。

●エスワティニでは、年間を通して伝統的な祭事がいくつも執り行われる。祭事には、人々は民族衣装をまとい民族舞踊に熱中するなど伝統文化が重んじられている。

●国内で最も重要な祭事は、作物の収穫前に行われるインクワラで、数日間にわたって国内各所で執り行われる。その他、マルーラという果実が実る時期を祝うブガヌや、国外で有名なリード・ダンスがある。リード・ダンスは、未婚の女性たちが皇太后を崇める国王主催の祭典で、国王が参加者の中から妻を選ぶことでも知られている。

●公用語は英語と現地語のスワティ語（シスワティ）で、挨拶は「サウボーナ」。スワティ語は、舌打ちの様な「チッ」や「ポン、コン」の様な「クリック音」が特徴。スワ

ティ語はバンツー諸語の一つで、言語体系は南アフリカで広く話されるズールー語に近い。スワティ語話者とズールー語話者はお互い会話ができるほど似ている。

【経済情勢】

●近年干ばつ等の影響で食料不足が深刻。日本から食糧援助を供与している。

●成人のＨＩＶ/ＡＩＤＳ感染率は約２７％（２０１８年、ＵＮＡＩＤＳ）と世界で最も高く、労働力の減少に伴う生産力の低下と１９９０年代後半より断続的に発生している干ばつの被害で農産物の生産量は著しく低下している。

●政府はエイズ対策や数多くの経済活性化プログラムを実施し、また、台湾が資金と専門知識を提供してエスワティニ農業の多角化を試みているが（注：エスワティニはアフリカ唯一の台湾と外交関係のある国）、近年は干ばつによる食糧危機やエイズの影響による生産者の減少により状況が悪化している。

●現在の失業率は約２３％（２０２０年、世銀）。政府は労働力に対する技術訓練に力を入れているものの、医師等専門職種の国外流出が深刻化している。

【政治情勢】

●エスワティニの行政及び立法においては国王が絶対権力をを有している。エスワティニでは、固有の統治システムとして、ティンクドゥラという、地域の各首長から構成される地方統治が行われている。ティンクドゥラは、国王及び王室からの決めごとなどを執り行う行政機能の役割を現在も担っている。

●エスワティニの議会は上院（３０議席：２０議席は国王勅撰、１０議席は下院から任命）と下院（７５議席：１０議席は国王勅撰、６０議席は直接選挙によって選ばれ、残り４議席は地域を代表する女性、１議席は司法長官。）の二院制で、議員の任期はそれぞれ５年。

【観光】

●西部には森林、東部には山野、内陸部には緑の高原と渓谷と、美しい地形を有しており、南ア等の近隣諸国や欧米からの観光客は多く、ハイキングが人気。

●マンテンガ・カルチャル・ビレッジでは、伝統ダンスのショーが開かれている。案内の人の話を聞きながら、伝統的な家屋や村を見学することができる。

●名産品の一つは「スワジキャンドル」と呼ばれる、花や動物などを題材として色付きロウでデザインされたキャンドル。火を灯すとステンドグラスのように輝く。製作にはヨーロッパの陶器やガラスに用いられる「ミルフィオーレ」と呼ばれる技術が取り入れられているとされる。

●もう一つの名産品「ヌグウェニャ・ガラス」は、空き瓶などを使った再生ガラス。精巧な動物の置物や食器などが制作されている１９７９年にスウェーデンの支援を得て立ち上げられたため、製法には、スウェーデンのガラス細工の技術が取り入れられている。

【食事】

●主食はメイズ（とうもろこし）の粉と湯を混ぜて作られるパップで、もっちりとした食感が特徴。これに野菜や肉を添えて食べる。

（了）